

ミッション		子どもの笑顔があふれる学校の創造				a ン ジ ョ	確かな学力と豊かな心、じょうぶな体をもった子どもを育てる 自己肯定感と自己存在感を育み、共感的人間関係のある集団づくりに努める 教育愛と情熱と自信を持って教育に専念する教師集団をめざす 学校、家庭、地域で子どもを育てる				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための重点方針		e 評価指標	f 目標値 (%)	g 達成度 (%)	h 評価	i 結果と課題の説明	j 改善案	k2次評価	l 評価
自ら学ぶ	子どもたちが話し合い、学び合う授業を推進する	・主発問を大切に授業を展開する ・ペアやグループでの話し合いを積極的に取り入れる		・児童の評価 ・教師の評価	70	児72.4 教96.7	A	○ペアやグループでの話し合いを、どの学年も意識して取り入れることができた。 ◆今後は全体の場で発言できる子を増やしていく必要がある。全体での発言を充実させていくために、主発問をさらに検討したり、話し合いの指導を充実させていく必要がある。	・ペアやグループでの話し合いを引き続き、授業やトークタイムで取り入れていく。 ・学習課題を確認したり、考えをまとめたりする場を必ず設定し、ねらいを明確にした授業づくりに努める。	A	今後、世の中はグローバル化する。自ら考え、行動することは大切なことであり、大変よいことである。
	ICTを効果的に活用した授業を展開する	・目的を明確にして、普段から授業にICTを活用する ・授業の内容がよく分かるような工夫をしたICTの活用方法を考え、学年で共有する		・児童の評価 ・教師の評価	75	児95.5 教93.3	A	○普段から授業でICTを効果的に活用することができた。 ◆新しいICT活用の方法を検討していく必要がある。	・ICTのよりよい活用方法について考え、学年や学校で情報を共有していく。	A	i-padの活用は素晴らしい。今後も続けてほしい。
	学習規律を身につけさせる	・みんなに聞こえる声で返事や発言をさせる ・話す人を見て話を聞かせる ・書くときに「グー・チョキ・パー・ピタッ」を意識させる		・児童の評価 ・教師の評価	75	児74.4 教76.7	B	○発言をしている子は、みんなに聞こえる声で返事や発言をすることができるようになってきている。 ◆今後は、みんなに聞こえる声で発言できる子が全体的に増えるようにしていく必要がある。 ◆聞くことに関しては、教師と児童の達成度に差があった。聞き方の指導をより充実させていく必要がある。 ◆今後、子ども同士の話合いの中で、聞き手や話し手を意識して、話したり聞いたりできるようにしていく必要がある。	・教室前面に掲示してある「使ってみよう発表のこぼれ」と「目ざせ聞き名人」を意識させながら指導の徹底をはかる。	B	子どもは一生懸命発言しているかもしれない。先生の評価が厳しいのではないかと。
	家庭学習を習慣化させる(学年×10分の家庭学習)	・学年×10分の家庭学習を推進する(1週間のトータルが学年目標時間となるように学年に合わせて取り組みを考える。読書や習い事の時間も含める) ・家庭学習に取り組んだ時間を記録させ、意識づけをしたり、励ましたりする(中・高学年)		・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	低90 中80 高70	児86.0 保82.6 低保88.4 中保78.8 高保78.7 教86.7	B	○昨年度よりも中・高学年の達成度が上がった。	・学年に応じた課題(音読・漢字・計算)を出し基礎学力の定着をはかる。 ・学習のすすめ方の例を示すなどして、子どもたちが自主的に学習に取り組む力を伸ばしていく。	B	基礎基本を大切にすることは重要である。
豊かな心	礼儀やルールを身につけさせる	・あいさつ運動の実施(あいさつ週間には、学年だよりや児童会だよりで保護者や地域の人に知らせ、あいさつ運動を展開する) ・月のめあて、ふりかえりカード、家庭への啓発で取り上げ、整理整頓を徹底する ・学級活動や道徳の授業でルールやマナーを意識させて指導をする		・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	あいさつ 児79.8 保71.2 教76.6	B	◆あいさつ運動の期間中は意識できていた。しかし、普段は、あいさつをすれば返事はするが、すすんで行うことはできていない。	・あいさつをより意識できるように、計画運営委員の毎朝の取り組みを担任が学級で取り上げて、日常的に啓発する。 ・交通立ち番などの地域の方々にあいさつするように、 通学団会で呼びかける 。	B	姿勢がきちんとしていることが大事である。トイレのスリッパの整頓など、心を育てていくことが必要である。
	本好きな子を育てる	・学年ごとに年間目標冊数を設定し、読書状況を把握し、指導に生かす ・読書週間を設け、担任がブックトークをする		・図書館貸し出し冊数の達成率 ・児童の評価	80	達成率84 児79.4 保54.8 教100	B	○読書週間や目標冊数の設定、貸出冊数の途中経過を意識させたことにより、達成することができた。 ○図書ボランティアや図書館司書の働きかけにより、子どもが本に親しむ機会が増えた。 ○ブックトークは各学年で取り組んでいた。 ◆保護者のアンケート項目は家庭生活に関する内容であり、項目の内容にずれがある。	・今後も、読書週間や目標冊数の設定、貸出冊数の途中経過の連絡、担任によるブックトークを継続して取り組んでいく。 ・ 懇談会のふりかえりカードに、貸し出し冊数の項目を作り、家庭へ伝える。 ・保護者のアンケート項目の内容を改善する。	B	本を読むことは大事である。偉人伝を読んでもらいたい。地域の偉人の本が図書室に並んでいるとよい。
	いろいろな人とかかわる力を育てる(情報モラル)	・定期的なたてわり活動を実施し、異学年集団とのかかわりを深める ・人とかかわる授業(CSSTやエンカウンターを含む)を、学年でねらいを明確にして実施する ・情報モラル教育カリキュラムに沿って、授業を実践する		・児童の評価 ・教師の評価	80	児79.9 保71.5 教80.0	B	○たてわり活動などを通して異学年とのかかわりを深めることができた。 ○人とかかわる授業を行ってきたため、自分の意見を発表したり、相手の意見を聞き取ることができるようになってきた。	・今後も、たてわり活動を積極的に取り組ませていく。 ・学年で道徳や総合などの計画を立てるなかで、人とかかわる力のねらいを明確にしてから、単元に取り組んでいく。	B	「話し上手は、聞き上手」という。これからも話し合い活動のような、かかわり合う場を大切にしていきたい。
	命を尊び、たくましい生活力のある子を育てる	基本的な生活習慣の定着を図る		・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児83.1 保76.4 教76.6	B	○去年よりも児童の達成度が上がった。元気カードや保健だよりで早寝早起き朝ごはんの呼びかけをした成果が表れている。 ◆教職員は家庭での生活を把握できないため、教職員のアンケート項目を給食に関する内容にしている。一方、児童、保護者のアンケート項目は家庭生活に関する内容であり、項目の内容にずれがある。	・引き続き、情報モラル教育カリキュラムに沿って、授業を実践していくようにする。 ・情報モラルについてのコラムを長期休業前の学年通信に掲載し、家庭に呼びかける。	A	改善案のとおりでよい。
じょうぶな身体	命を尊び、たくましい生活力のある子を育てる	・道具や環境の整備を行い、外遊びの奨励する ・運動量の確保と多様な動きづくりを意識した体育の授業の充実をめざす		・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児79.4 保72 教90	B	○児童のアンケート項目は、体育の取り組みについて聞いたものなので、運動量の確保と多様な動きづくりを意識して体育を行うことができたことがわかる。	・教育課程については、体育館種目の時期と二学年間(低・中・高)の単元の見直しを行い、カリキュラムを作成する。 ・運動場以外でも安全に配慮しながら運動ができる方法を考える。	B	もっと外で遊んで体を動かすようにしていくことが大切である。
	安全な学校生活を送らせる	・子供たちの安全意識を高めるため、校内・登下校における継続的かつ具体的な指導の徹底をめざす ・ふりかえりカード・校内表示の活用を心がける		・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児81.9 保90.1 教76.7	B	◆教職員と児童、保護者の安全に対する意識に差がある。児童の安全の意識を高める必要がある。 ◆保護者にも実態を知ってもらう必要がある。	・一斉下校や下校指導を行い、必要に応じて教師がつきそって指導をする。 ・ ふりかえりカードに安全に関する項目を作り、指導に生かす。	B	教えてもらったことは、その時はやらなくても、わかるようになった時に役立つ。知識として身につけさせたい。
	安全な学校生活を送らせる	・子供たちの安全意識を高めるため、校内・登下校における継続的かつ具体的な指導の徹底をめざす ・ふりかえりカード・校内表示の活用を心がける		・児童の評価 ・保護者の評価 ・教師の評価	80	児73.2 保53.3	B	◆教職員と児童の安全に対する意識に差がある。児童の安全の意識を高める必要がある。	・右側歩行ができるように、階段に矢印をつける。	B	
信頼される学校	子ども一人一人にあった対応に努める	・職員の共通理解を図るための情報交換会を職員会議の前に実施する ・必要に応じて臨時の生活サポート委員会や情報交換会を開催する ・子どもの悩みを早期発見し、適切に対応するための生活アンケートを年3回実施する		・児童の評価 ・保護者の評価	90	児88.4 保88.9 教96.6	B	○悩み相談については、児童、教職員、保護者とも90%近い評価を得ている。学校では、生活サポートを中心に、早い対応を心掛けてきた成果である。 ◆今後より一層、児童や保護者の方に寄り添った支援をしていかなければならない。	・スズキ校務を活用して、保護者の情報や子どもの様子など、次年度への引継ぎを確実に実行していく必要がある。 ・校長先生や教頭先生に 事例の講話をお願いしたり、ロールプレイを行うなどの研修 を行うことも有効である。	B	子どもとの距離を縮める努力をしてほしい。それが、保護者との信頼関係につながる。
	地域・保護者とともに教育活動を行う	・クラブ活動や活動型授業における、ゲストティーチャー、お手伝いボランティアなどとして地域保護者への幅広い招聘や参加の呼びかけを行う ・お世話になった地域の方に子どもたちが感謝の気持ちがもてるようなかわり方の工夫をする		・学校全体の活動は月1回以上の実施 ・各学年は年1回以上の実施	90	教80	A	○達成度は80%であったが、「あなたは…」という質問なので個人として答えた結果であると考えられる。 ○地域の方の活用については、3、5年生の総合的な学習をはじめ、クラブ活動など様々な場面で活用されているので、学校全体として捉えれば活用できていると考えてもよいのではないかと。	・今後も地域の方に参加していただく行事を続けていくために、 ワークシートや行事の反省をデータで残し、次年度への引継ぎ をしていく必要がある。 ・過去に来ていただいた方のデータを人材バンクとして登録しておくをお願いしやすい。	A	地域の大人の背中が子どもを育てる。大人がちやんとしていけないと子どもが見ている。
	家庭や地域へ情報を積極的に発信する	・学校の様子を知らせるホームページの更新をする ・学校・学年便りの定期的な刊行とメール配信による効果的な情報発信を行う ・校内掲示板の効果的な活用をすすめる ・情報モラルについて保護者の啓発を図るため、学年便りにて情報発信を行う		・保護者の評価 ・教職員の評価	90	保94.9 教90	A	○教員も保護者もかなり高い値になっている。これは学年通信や電話連絡、家庭訪問など様々な方法で家庭との連携を重視、工夫してきた結果であると考えられる。 ○特に今年はブログの更新やメール配信がこまめに行われているので、評価が急激にあがった。	・今後も家庭や地域への情報発信を続けていく必要がある。 ・ 行事ごとに写真をホームページに掲載するとともに 、大きな負担となるので考える必要がある。	A	安心・安全な学校は大事である。地域も協力して子どもを見守り、育てていく。